

平成24年度第3回朝日地域審議会

会議録（概要）

期日：平成24年10月23日（火）

場所：鶴岡市朝日庁舎 大会議室

平成24年度 第3回 朝日地域審議会 会議録

- 日 時 : 平成24年10月23日(火) 13時30分から15時30分まで
- 会 場 : 鶴岡市朝日庁舎4階 大会議室
- 出席委員: 敬称略・五十音順
安達幸恵、五十嵐大輔、上野博喜、小野寺一郎、工藤悦夫、今野継子、佐藤正、
佐藤照子、佐藤宥男、佐藤芳彌、難波玉美、松本壽太、宮崎康史 渡部巖、渡部小枝
- 欠席委員: 敬称略・五十音順
井上時夫、大滝清策、齋藤源之助、佐藤泉三、難波一之
- 市側出席職員
【庁舎】朝日庁舎支所長、総務企画課長、産業課長、市民福祉課長、総務企画課主幹、
産業課主幹、南部税務事務室長、南部建設事務室長
総務企画課職員
【本所】地域振興専門員

- 1. 開 会
- 2. あいさつ
佐藤芳彌会長
鈴木誠次朝日庁舎支所長
- 3. 協 議 (議長 佐藤芳彌会長)
(1) 地域審議会協議テーマについて

- 佐藤芳彌会長
テーマについて、メインテーマは前回の会議で、「住み続けることができる地域づくり」ということ
で決めたわけだが、サブテーマについては会長、副会長に任されていた。
みなさんの意見を基に三つにまとめ、一つはコミュニティ、二つ目は産業、三つ目は人ということで
提案する。詳しいことは事務局から説明する。

- 石井一三総務企画課長
会長、副会長、事務局で、前回の審議会でも出された意見を基に、サブテーマについて設定をさせても
らった。
出された意見を三つに分類して、一つは定住に関わる事項、二つ目が産業振興に関わる事項、三つ目
が地域づくり、人づくり等に関わることということで整理した。この三つの事項を基に、その中からサ
ブテーマということで設定した。

その案として一つが、「集落自治機能を維持し、コミュニティを護る」。二つ目が、「中山間地域の特色を産業振興に活かす」。そして三つ目が、「いきいきと輝く“ひと”と地域を創る」。この三つのサブテーマを提案させていただく。

テーマについては、前年度とダブる部分が多分にあるが、今後より具体的な取り組み、方策等について提言をいただきたい。

○ 佐藤芳彌会長

サブテーマについては今、説明があったが、この三つの方向ということでよいか。
意見、質問があればお願いしたい。

(特になし)

○ 佐藤芳彌会長

中身は、このサブテーマの中で掘り下げて、どうするかが大事なので、この三つで話し合いを進めていくことで了解をお願いする。

(サブテーマに関して、庁舎として取り組んでいる状況を説明)

○ 石井一三総務企画課長（「集落自治機能を維持し、コミュニティを護る」に関する事項）

○ 土田宏一産業課長（「中山間地域の特色を産業振興に活かす」に関する事項）

○ 佐藤利浩総務企画課主幹（「いきいきと輝く“ひと”と地域を創る」に関する事項）

○ 佐藤芳彌会長

テーマに沿った朝日庁舎の取り組み、現状について説明をいただいた。質問、意見があればお願いします。

(特になし)

○ 佐藤芳彌会長

これからが大事な部分だが、この三つのテーマに沿ってどのような形で話を進めていったらいいかということを委員からアドバイスをいただきながら、より具体的な提言ができるようにこの会を進めていきたい。

進め方についていいアイデアとか意見ををお願いします。

○ 佐藤正委員

合併以降、周辺の地域というのはサービスの低下をずっと強いられてきており、税金はやむを得ないにしろ、公共料金等はまだ少し緩和して、時間をかけた取り組みが必要だろうと思うし、今地域のフォローをしないと、集落自治の維持というのは非常にむずかしく、近い将来、本当に近い将来、大変にな

と思う。

それから地域の活性化は行政としても一生懸命、謳っているが、一方で何をやっているかというところ、保育園は統廃合、小学校の統廃合も検討と、なんか地域の活性化の芽を摘んでいるのではないかと思え、これではいきいきと輝く人は育ってこないと思うし、行革もしかり、行政というのは一貫性を持たせて進めてもらわないと大変だと思う。

「山の恵を活かした農業ビジネス」とあるが、一昨年3月の「いこいの村」での講演で、JA甘楽富岡の営農事業本部長をした黒澤賢治さんから「地域農産物を丸ごと売るマーケティングの実際」について講演を聞く機会があった。

組合員の生産物全てを売りつくすことを目標に、生産者マニュアルをアマチュア、セミプロ、プロ、スーパープロの4群に区分して、農協の直売所をトレーニングセンターとしてスタートさせた。そのほかにインショップ店だとか中堅スーパーだとか、総合相対取引や、ハイグレード商品はデパ地下へとステップアップさせている。共同販売一括でなくて、クラス別営農群を理事者のアドバイスで決定して、事業の価格体系を平等から公平へ、それから集出荷業務から販売事業へ、単品大量生産から多品目計画生産へ、組合員に原価を開示し仕入れ代行事業へと転換を進め、生産者の手取り最優先と販売事業の自己完結をめざすということで始めたそうだ。農協に総合パッケージセンターを設立して取引先別の商品をつくり実施している。会員は5年目で現在、1,560人。平均年収は200万とのこと。所得率が8割ということだが、私はとても8割というわけにはいかないが、売れる作物の供給には、播種、苗の撒布から農機具も共同利用、パイプハウスもリース、セミプロ以下にはトラクターは買わせないというような方針で取り組んでいる。一部集荷もあるが農協は出荷してみないと価格は分からないので、それでは農業で生計を立てることはできない。朝日には産直もあるが、地域の生産物を全部そこで販売できるかというところと不可能なので、それで朝日地域の生産物を全て店頭販売用にパッケージして、販売に力を入れればおそらく現在の所得の3倍以上は取れるのではないかと考えている。当然、お年寄りの小規模の生産者がいっぱいいるわけだから、そういう意味でも大変興味のある話だった。鶴岡にも現在、二つの農協があるが、市農協には直売所も4店舗あり、庄内たがわ農協には直売所はないが生協などでインショップもしているし、それぞれAコープも持っているのだから、私はすぐにでも取り組めるのではないかと考えている。

あと、問題は鳥獣被害対策で、それさえなんとか対応できれば、すぐにでも取り組めるのではないかなと考えていて、本来であれば農協さんあたりから積極的に取り組んでほしいわけだが、大組織なので簡単にいかないとしたら、例えば産直グーさんのところで取り組むということも考えられるのかなと思う。ぜひ皆さんの意見をいただきたい。

○ 佐藤芳彌会長

会の進め方というよりも、このテーマに対する提案ということでした。

2番目の産業振興に関わることと思う。山の恵を活かした、いかに売るかということだとやっぱり産直になるが、「グー」や「ふれあい市場」を今後、どうするかということをも具体的に上げていきたい。それでは会の進め方も提案も含めて、意見をいただきたい。

○ 松本壽太委員

やはり一番は人口減社会を食い止めるところが大きいのではないかと。農産物をいくら新鮮なうちに販売したいと思っても、買う人とか食べる人がいなければ、生産しても売れない。サブテーマを①、②、

③と分けたということもあるが、片一方がよければ全部がよくなるかと言えばそうでもなく、総合的に全部、関連があることで、非常にむずかしい問題だ。

○ 佐藤芳彌会長

全て分けられるものではない。総合的な問題だということは分かるが、総合的にやると具体的な提案とか解決に向けた施策ができないし、総合的に考えながら具体的なものを取り上げていくよう進めていきたいと思う。

○ 五十嵐大輔委員

意見をまとめるのに時間がかかるので、三つのサブテーマの問題点を端的に一言ずつ、たくさんピックアップして行って、そこから会を進めていくようにしてはどうか。一人ひとりの意見では真っ直ぐになってしまって交わりにくいので、簡単な問題点をいっぱいピックアップしてから話をして、1番はこんな問題があるなどとしたらいいのではないか。

○ 佐藤芳彌会長

前日もいろんな意見を参考にサブテーマまでたどりついたので、この三つのサブテーマについてまた、委員の皆さんからの意見で具体的なものをまとめて、また次の回、話し合うようにしたい。

○ 渡部厳委員

まず、こういうことを議論するときに、ひとつは合併前後10年くらいの人口動態がどうなっているか、そして将来人口がどの程度、予測されるのかが大事なことだと思う。また、人口構成はどうなっているのか、高齢化あるいは出生のことも含めて、どう推移してきて、将来どんな予測がされるか、あるいは集落人口はどうか、どう変わっていくのかなど必要だと思う。

もうひとつは、産業構造がどのように変化してきたかなど、基礎的な資料がなくては議論を進めることはできない。産業構造、あるいは人口動態、人口構造などの資料の提示をお願いしたい。

一次産業の話が出ているが、非常に一次産業が高齢化している。集落営農を早急に進めないと本当に放棄地がたくさん出てきて、委託する人は増えるが受け手が出てこないという実態が急速に、かつ大幅にくると思っている。一次産業の活性化も産業にとって大きな問題で、田んぼに限らずぶどう園も受け手がないのが現実だ。やはり、基礎的な資料に基づいて、そういうところから議論していくべきだろうと感じた。

8月17日の日経新聞の中に、「あなたは地域活性化についてどう考えますか」というアンケート公告が載っていた。その中で第一番目に「今、何が主に問題になっていると思いますか」という地域の課題については、やっぱり「高齢化」が67%だった。次に「少子化」が39%、「働き先がない」34%など、評価者は「こういう結果は得られたけれども、結局は働く先さえあれば若者の流出を防ぐことができ、次の世代の誕生も期待できる」ということを言っている。一次産業、二次産業、三次産業、今農業を六次産業ということで推進しているが、やはり産業構造がどうなっているかは大事なことだと思う。

「地域を再生、活性化するために特に何が重要だと思いますか」という設問に対しては、「暮らしやすさ」が43%、「高齢者の活用」42%、「地域特産の取り組み」27%となっている。「暮らしやすさ」というのはそれぞれ、個人差があると思うが、そこに住んでいて生きがいを感じる、その人の価値観が得られるようなものでなければならぬと思う。やはり、若者が住み続けられるような地域でなけ

れば地域の活性化はあり得ないと思う。若者が住み続けられるような生活環境を考えると、産業構造がどうなっているのかことに戻らと思うが、トータル的に朝日地域というのはどんなところか、また、どういう状況に置かれているのかをもう少し知る必要があると思う。

○ 佐藤芳彌会長

まず現状を知る。そこから始まるということで、今日はちょっと無理だと思うが、人口の動態ということではすぐに資料を出せるものはあると思うので、産業の構造とか人口の将来の見通しとか、いろんな形で住み続けることができる地域づくりのために基礎となるデータを、次の会議までに揃えさせる。

○ 渡部小枝委員

私も渡部厳さんからあったように、合併して7年でどのように人口の割合が変化していったのか、将来の見込みや産業の構造の変化など、やっぱり資料に基づいてでないと話ができないことがいっぱいあると思う。

有害鳥獣被害だが、自分は農業に携わっていないので、よく分からないが、私が子どもの頃はこんなにクマやサルは里に降りてこなかったような気がするが、今は国道112号も横断してるような状態なので、どうしてこんなに鳥獣被害が起こるようになったのかも、できれば詳しい資料があれば、それを見ながら話ができる。

ちょうど子育てをしているが、中学校に毎年、学習機会の拡充をはかるという一環で、今年は“和力”の演奏を娘たちは聞いてきたようだが、個人ではなかなか聞くことができない講演だとか演奏だとか、子どもの感性を伸ばす、すごく大きな会でありがたいと思って毎年、参加している。

○ 佐藤芳彌会長

いろいろな基礎資料を次の会まで出していただくことにして、それぞれの委員がいちばん課題としてあげると三つのテーマのこの部分だということを、一言ずつ言ってもらいたい。

それをまとめて次、具体的な方向として、この部分、例えば鳥獣被害なら鳥獣被害の部分をつまみ、少し意見を深めていくという形をとりたいと思う。

○ 佐藤照子副会長

私は2番の産業振興に関わるということを話したい。

山の恵を活かした体験観光、農業ビジネスという点では今、産直あさひグーも体験交流会というものを年々増やして、今年は森の産直カーが鶴岡に行って販売している老人福祉センター、そこのお年寄りを招いて、春のワラビ採りから次、ブルーベリー摘み、クリ拾い、そしてついこの間、山ぶどう摘みと4回、体験交流をしたが、60代から80代までの方が大変喜んで、朝日の自然を満喫してもらって産直あさひグーで田舎の味のお弁当を食べて買い物をしてもらうという企画を、去年まで2回だったが今年は一気に4回まで増やして大変喜ばれた。こうしたことを今後も続けて市内から朝日のよさを見てもらうために続けていきたい。

産業課では販路拡大事業で、ネット販売に取り組み始めたところだ。従業員が少ない中でネット販売に取り組みするのは非常にむずかしいが、他の産直は取り組み始めているので時代に取り残されないようにがんばるつもりだ。

鳥獣被害では、明日採って産直に出そうと思っていた産物が、一夜にして全て食べられてしまって出

せなかったというような話が時々聞かれて、本当にもったいないと思い、どうにかならないかと思っている。

また、今いちばん私の悩みは後継者がいないということだ。産直が始まる時に出した人は、だんだん疲れて大変だという声がよく聞かれる。せつかく7、8年たって、固定客、リピーターがついてくれて、酒田、鶴岡から買い物に来てくれるのに、それを引き継いでくれる人がいないことが、これから産直、そして朝日にとっての問題だと思う。

里山文化に癒しを求める観光客も本当に多い。最近では本当に“どやどや”とお客さんが入ってくる。紅葉を見に来ているのか、それともキノコを買いに来ているのか、さまざまな方がいると思うが、本当に朝日のよさをなくさないようになんとかいろんな工夫をしていければと思っているので、力を貸してほしい。

○ 渡部厳委員

先ほどの件に追加で、所得構造も併せて提示してほしい。所得構造がどうなっているか、農業所得だとか賃金労働とかさまざまあるが、山形ルネサスの問題や雇用法の改正で高齢者の雇用の場を確保しろというが反面、若い人の職場を奪うことになるなどのジレンマがあり、そういうことも含めて、検討の材料になればと思うので、所得構造などもどうなっているか、ここに住んで所得がどの程度あればお互いにみんな生活ができるのかということ、活性化のためには検討しなければならないと思う。

農業でも高齢化の問題が出たが、芸術文化関係の団体でも、やはり高齢化の問題が非常に大きな問題になっている。人口の絶対数が少ないということもあると思うが、なかなか若い人が入ってこない。

一方、いきいき大学も百人くらい、それからグラウンドゴルフをしても大体、百人くらいの朝日の人が参加しており、高齢者が生き生きとすることはいろんな意味で、医療とかあるいは地域の面でも非常に助かっているわけだが、事業を有効に活用していきいきと健康づくりをしながら、地域の中で貢献してもらおうということが大事だと思う。

それから、ブレインストーミングのような形の提案があったが、それぞれみんな、ちょっとしたことでも意見があると思うので、ブレインストーミングで体系をつくることいいのではないかと思う。

○ 小野寺一郎委員

渡部厳さんの意見、大変私も全くそのとおりだと思い、ぜひこの次には、こうした資料なども提示しながら検討してみたらよいと思う。

サブテーマ③に該当すると思うが、“すまいる”やスポーツセンターの使用料の問題で、合併してからは無料に使わせてもらっていたが、去年あたりから有料化になっている。無料に使わせてもらっていたときと今との比較、使用回数とか使用の中身、使用の頻度など、どのくらい差があるのか、使用団体が少なくなっているのと想像しているが、やはり民間の様々な団体、それから趣味活動、芸文関係の団体等が使いにくくなっている。私どもの趣味の会は、“ふっくら”を利用している。非常にサービスがよい。

本郷地区で集落当番の集まりがあると落合は、“すまいる”は使用料が取られるから上本郷の公民館を貸してくれという状態だ。市は全部、使用料を取っていると聞いているが、こうした地域は差があってもよいのではないかと考えるので、むしろ前より余計に使うようになったということであればよいが、利用状況なども伺いたい。

○ 工藤悦夫委員

鶴岡森の保育研究会事業の一環として、“森のごっつお、なめこで食育”というタイトルで、子どもたちに、なめこの植え付け、収穫、料理して食べさせる体験活動をやっている。先日は鶴岡中央児童館の20名の子どもたちが来て、体験をしていった。三川町の横山小学校6年生の子たちは、春に植え付けをして、秋にまた大鳥に来て、なめこ採り体験をする予定になっている。今年はお出が悪くて、出てくれ出てくれと言いながら拝んでいる。

そういった山の恵を活かした体験観光、観光にはちょっとならないかも知れないが、少しでも大鳥地区に人が入ってくれば、少しでもにぎやかになってくれたらいいと思ってやっている。

子どもの成長の過程の段階で、やっぱり私は生きていくためには基本だと思って、進んでやっているが、一人でも多く来てもらえば大鳥にとにかくどんな形でもいいから来てもらえるとありがたいという気持ちもありながらやっている。

こういう仲間が増えて、どんどん学校関係と交流をして、大鳥のよさ、自然のよさを知っていただければと思ってやっている。

それから鳥獣被害対策は電気柵や花火を市の補助でやっている。巡回をしてもらっているが、何年もみているが、見回り隊は集落単位で置いてもらえば効果があると思う。南部地区は大鳥に来てまた大平に行って、1日1回しか回ってこないの、あとは自分たちでやっている。大鳥なら大鳥に1人でも2人でもいてもらえれば、もう少し効果があると思っている。

○ 安達幸恵委員

更生保護女性部という会があり、庄内地域80人ぐらい、ぜひ朝日で会議をしたいということで“すまいる”を借りることにしたが、今までどおり当たり前のように無料で借りられると思っていた。

予算も少なかったが、せつかく来てもらえるのだからと“グー”の弁当を準備するなどしたが、予算の3分の1が“すまいる”の使用料だった。とてもびっくりしたが、みんな朝日に来たいと言うので、“ふっくら”だと入らないということで、そこでやった。グーの弁当も大好評、場所もよかったと言われたが、朝日全体の活性化にがんばっているのに、そこでお金を取られるということに違和感があった。

私は食生活改善推進員の一人として、10月に食育ということで四つの保育園で、アンパンマンを使ったちょっとした紙芝居で朝食の大切さを教え、大好評だった。子どもたちは、食べ物の大切さというのをよく知っていて、そして「朝、こんなのを食べてきたよ」とか、すごく生き生きしていた。そういうものをつくれるこんないい場所だから、ぜひみんなでなんとかいい知恵を出して守ってあげたいと、みんなだと思って帰ってきた。食生活改善推進員の目標の中に地産地消があるが、おいしいものを小さいうちからみんなに食べてもらって、そして忘れないように、いいところだからねと、食べ物から胃袋から訴えていきたい。ぜひ、みんなそんなことで知恵を出していい朝日にできたらいいなと思っている。

○ 渡部小枝委員

私もグーの組合員としてグーにお世話になっており、2番の産業振興に関わることがいちばん、大きいと思うので、そのことについて話したい。

山の恵を活かした体験観光、農業ビジネスを興したいとあるが、母がドライフラワーを作り、蔓を山から取ってきたり、「せんてづる」をもらったりして、その蔓でつる細工を作ったりして、ドライフラワーのアレンジメントをしたり、その蔓でつる細工も作るが、その材料を使って教室もしている。いち

ばん遠い方で天童、他にも谷地、吹浦などから来て、朝日の“すまいる”を使って毎月、お客さんが来てくれる。出張も上山など、いろんなどころに行くので、寒河江だとか天童の方の意見を聞く機会もあり、その都度いろんな産直に勉強がてら寄ってくるが、やはり、“あぐり”もそうだし、他の産直も特色を活かして、すごくいい商品が並んでいると思って見てくる。

朝日にもきのこだとかクリだとか、山菜だとか、ここにしかない産物があり、“ゲー”も10年になるが、加工室があれだけあるのに、乾燥機も含めて施設をフルに活かしてきれていないんじゃないかと思うことが、多々ある。

私は食品加工はしないが、すごく施設として立派なので、もう少し何か特産物を作れないか、もったいないと思っている。とちもち、赤飯を炊く方、漬物を漬ける方などが、それぞれ加工所を持ってがんばっているが、公の施設であれだけ大きい施設なので、あれを使って全面的に外に売り出していけるような商品をつくれないうかと思っている。

“すまいる”について、私は営利目的なので使用料を払っているが、以前と比べると冷房も効きにくくなり、暖房も温まりにくいので、冬は1時間くらい前から行って暖房をつけないと、とても部屋が暖まらないという状況だ。自宅からストーブを持ってきて暖めたこともあるが、もう少しハード面を改善してもらいたいと思うことがある。

また、後継者が高齢化という話もあったが、我が家も他人事ではなくて、私も母もまだまだ勉強不足なので、山ぶどうのことや農業のこと、教えてくれる人が元気であるうちに、がんばって習いたいと思っている。

○ 今野継子委員

3回目の審議委員会になるが、途中いなくなったり、3回続けて出たり、今回初めてだったりという方がいても、審議のほうはどんどん進んでいて、実施されているもの、これから取り組むものが出されているわけなので、説明するときには資料があれば資料に基づいて説明してもらえるとありがたいし、やはりみんな分野が違うので、五十嵐さんが言ったようにボードなり、それから資料があれば資料に沿って説明、それから質疑をしてもらえたらありがたい。

私は道の駅博物村で観光に携わっている。震災復興支援で県ではいろいろなことを進めていて、酒田、山形のほうは活動的だが、庄内特に鶴岡はイマイチ、一緒になっていないのではないかと感じている。

これまではモノをだせば、人が集まれば、どんどん売れていくっていう状況だったが、今は震災があつてからと思うが、モノがあつても売れない、人が集まっても売れないと、現場にいてすごく感じている。やはり、人なのかなという部分を感じているので、ぜひ朝日地域では、数字だけで話をするのではなく、若者たちがここに帰ってきたくなるような夢を話し合えるような審議会であつたらいいと思っている。やはり鶴岡市になって6市町村みんな料金体系が一緒になっているが、先ほどから出ているように地域性によって料金も違っていいんじゃないかと、そうする部分によって人々の暮らしも変わってくと思う。

○ 五十嵐大輔委員

昨日、六十里越街道の現地研修に参加させてもらった。今回は10人くらいで蟻腰坂から湯殿山ほてるまで歩いたが、朝日に住んでいたにも関わらず、まだまだいいものがいっぱいあるということ、途中、山船頭の方々と話しながら感じた。

そのとき感じたことで、民営なので仕方がないが、あそこのホテルがもったいないとか、歩きながら

両側に生えている山野草とかが、もっと商品になるものがいっぱいあるということを感じて、その中で例えば月山筍みたいなものでクッションを作ると、1個で5千円とか1万円とか、簡単に取れるという話を聞いて、それだったら朝日で技術さえあれば作れるし、冬場に道具を揃えておけば年配の方でも作れるし所得向上にもなるので、そういうところに補助などをしてもらえれば、それだけでも朝日の利益は十分、上がると思う。黒文字も爪楊枝として販売しているものがあるが、香木として有名なのでオイルとして若い女性向けに目薬1本分の量で2千円から5千円くらいで販売できるし、初期投資が何百万もかかるが、地域とか行政で支援するなど、商品になるものは山ほど隠れているということを感じた。

黒文字でさらに、かんじき作りをしようとお願ひしており、ワークショップで一人5千円とつたとすると、1日で2万円以上になる。技術がある人がいるので、一つの作物を振興して利益を上げることも大事だが、元々あるものを活かした利益の上げ方もあるということ、昨日感じた。特産品の開発も、そういうところにつながれると思った。

鳥獣被害とかも、結局エサがなくて下りて来るが、六十里越街道なんかはほとんど杉林が近くにないので、食べるものがいっぱいある。杉林をどんどん減らしてブナ林をもっと復活させれば、単純に鳥獣の食べるものが増えてきて下りてこなくなると思う。10年、20年もかかるとは思うができてと思う。

越中堰なども、最近はやりの小水力発電に向いていると思うので、水利権をもっと緩和してもらえばいくらでも地元の農家の利益につながれると思う。やろうと思えばいくらでもできることはあるので、それをどれだけスピーディーに行政が汲み取ってくれるのかということ、前回はスピード感と言ったが、もっと早くしてもらえれば、いくらでもやれることはあるのだなというのは感じた。

前回は今回もみなさんで多くの意見を出したが、実際にその中で何を取り入れてやったかとなるとほとんど聞こえてこないで、そういうこともどうなのかと思う。

27日に注連寺でゴジラのトークショーがあるが、実行委員会には若い人が自分ともう一人しかいなくて、若い人が全然参加してないと、すごく感じた。このイベントは朝日のことにいっぱい関わってもくるので、みなさんからもできるだけ参加してもらえればと思う。

○ 難波玉美委員

私は里山文化に癒しを求める観光客が多いということで振り返ってみると、人口が減って集落の中に、解体しない家、それから壊れた家が増え、ちょっと観光客には悪いな、ちょっとさびしいと思っている。

産直の方は佐藤店長がばりばりがんばっているので心配ないが、まずは住み続けることができる朝日にしていきたいと思う。

○ 宮崎康史委員

定住に関わる事項の欄で、自治会で集落再編の可能性を検討しているとある。実際消防の方では、集落を越えて再編はしているが、集落自治の再編はいかがなものかと思った。

過疎対策では、昔から過疎、過疎と言われていて何十年もなるわけだが、過去に過疎を何とかしようという、そういう組織がいろいろあったと思う。有名だったのは広島県東城町の「過疎を逆手に取る会」だが、そういったところの実践例、逆に失敗した例も調べることができたら、おもしろい資料になると思った。

また、住みやすい地域を考えるにあたって、これまで朝日地域は克雪、雪問題が必ず出ていたが今回、

その文面が一言もない。克雪というのも朝日村時代から何十年も前から言われてきたわけだが、克雪から今度、利雪、雪を利用した考え方を考える何かがあってもいいと思う。その中で何年か前に雪室を建てたが、雪室で何を保存したか、どういう効果があったか、他地区でも酒や米を貯蔵しているが、当地域ではそういうデータを出しているのか、収集しているのかということを知りたい。

産業振興に関わることでは、当地域は中山間で、林業なくして農地は荒れていくと思う。山が荒れたら水も悪くなるし、その水が田んぼに流れていくので、林業をいかに生き返させるかが問題だと思っている。

地域づくりに関しては、総務企画課長から説明があった「地域づくり協力隊」というのがどういう事業になるのか、大変興味が湧いた。

○ 松本壽太委員

最近、iPS 細胞が話題になった。長寿社会がまさに更に加速するのではないかと思うが、現在の50代、60代、70代の一部はきっと、長寿にはなれないという気がする。その意味では、定住に関しても産業に関しても地域づくりに関しても、全てにおいて経験豊富な高齢者がそこに住んでいるわけなので、やはりその地域の子どもやその親の指導をしていただければと思っている。

やはり教育という、今ここにいる長寿の人たちが、孫やひ孫を力強く育てるといえることを望んでいる。

○ 上野博喜委員

サブテーマはどれも落とせないし、総体的に検討する余地があるかと思うし、もっとあるのかという感じもする。

その中でもやはり産業振興だと思う。中山間の集落形成というのは、主に農業があつて集落形成なってきたと思っている。集落維持には農業振興は必須条件。農業振興にはいろいろな方法が考えられるが、今は農家の後継者が農業を継がないというのが、当然のここのようにある。農地を荒らさないで維持し、農産物を作り、集落も維持していくために集落営農を立ち上げたわけだが、これも限度があると思う。個々の農地で農業を維持することは困難なので、世代交代しながら農地や山を守る方法は法人だろうと考えている。法人であれば、構成員として農業経営を行う人、作業を行う人、さらには定年後に農業を行う人を法人の中に取り込める。さらには優秀な人材を雇うことができる。

また、集落の維持には、もっとにぎやかな方法が必要だと思う。特に地域に密着していた施設、学校とか保育園等が集約されて後継者が定住しなくなり集落が崩壊しつつあるという所もある。

今一度、産業振興と併せて、集落でかつて継承されてきた歴史と文化の発掘とか復活を提案したい。例えば祭り文化だとか、神社で盆踊りをするなど、拠点集落でもいいので、そういうものを行政が応援し助成、補助をして、やってみたらどうかと思う。併せて集落の起源や生い立ちを話し合い、将来につないで検証していくために、簡単に記録するという方法も考えられる。

人づくりの面で言えば、これは鶴岡市全体で言えるわけだが、優秀な人材が大学等を卒業しても、地域に残って仕事をする場所がない。大企業とは言わないまでも、大企業とか地方分権で国の機関を鶴岡市に持ってくるような、優秀な人材が定住できるような条件が必要だ。さらには、かつて活発だった青年団や集落単位の青年組織を復活させることも考えられる。

今、若者は各々に行動して、地域の行事に参加する若者も少ないように感じる。むしろ若者が地域振興を提唱し、行動する必要があるのではないか。したがって、行政主導でそういう組織をつくり上げて

誘導していく必要もあるのではないかと、常々考えている。

○ 佐藤宥男委員

最近特に思うのが、物を作るのも人間、壊すのも人間というのが、特に頭から離れない。と言うのは、例のハウステンボスというのが、2度も倒産しているわけだが3度目、今やっているのが格安航空会社を立ち上げた方で、最初の1年で黒字になった。詳しく言うと6ヶ月くらいから黒字になってきている。

リピーターをいかに取り込めるかということと、経費は2割削減、収入のほうは2割増、これが彼の哲学ということで、あのハウステンボスが黒字になって今、元気だというのは、やっぱり一人の人でそれだけ違うのかという思いがしてならない。

朝日地域は山だが、山と海というのは切っても切れない関係があると思う。石巻では、海をきれいにするには山からきれいな水が流れてこないとダメだと広葉樹を植えている。カリウムとかミネラルを含む水が海に行くと植物プランクトンが多く発生して、それが動物プランクトンに変わってサカナとか牡蠣の養殖につながっていく。先日、庄内浜の岩牡蠣が減少傾向だというニュースがあったが、海が元気なのではということを感じた。

したがって、これからは朝日地域の場合は、海と関連したイベントのようなものをつくっていったらいいのではないかと思う。

○ 佐藤芳彌会長

それぞれの委員から、それぞれの立場で貴重なご意見をいただいた。まず一つはこれを整理して、この次に具体的にまとめて、その問題について話を進めていきたい。行政のほうからは、いろんな人口動態や産業構造を含めたデータ、また過疎を逆手に取った、いろんな活性化にした例などを、この次の会議まで出してほしい。

三つのサブテーマということだが基本的には総合的に絡んでおり、個々ではない総合的にやることだと思う。雪の問題、また文化なども含めて、幅広い、地域の特性を活かした形の取り組みになるのではないかと思う。

厳しい状態にあるが、やはりそこに人が関わって、どういう情熱で物事を進めていくかというのが基本だと思う。ここにいる委員の方がそれぞれの立場で情熱を燃やしてやれば、それが地域の添加剤になって、地域づくりが大きく展開していくと思う。地域の人だけでない、やっぱり行政との連携、やはり職員と思いが一体とならないとできないこともあるのでよろしくお願ひしたい。

4. その他

平成24年度第4回地域審議会の開催予定について

5. 閉会